

【鳥取県の全体目標】 がんによる死亡者の減少 75歳未満がん年齢調整死亡率(人口10万対)を70.0未満とする  
(令和5年度まで) (男女別の目標値 男性：90.0未満 女性：50.0未満)  
 【中期目標】 高精度放射線治療を進めつつ、県民の放射線治療に対する理解度の向上を図る  
(令和3年度～令和5年度)

前年度の目標	目標：県内の放射線治療を必要とするすべての人に、質の高い治療を安全に提供する	
	前年度Plan	前年度Act
治療の高精度化を推進し、かつ標準的で安全な治療に徹する。		東部地域でのIMRTのための専門医の派遣、鳥大病院での組織内照射併用腔内照射の開始、さらに新リニアックの導入など、一定の高精度化に関する成果は認められたが、継続的な常勤医不足、及び新たに症例数の伸び悩みが今後の大きな課題と考えられた

今年度の目標	高精度かつ、標準的な放射線治療の推進を維持しつつ、地域の病院との連携を進め、各病院において症例数の増加を計る。																							
Plan(計画)	Do(実施)	Check(点検・評価)	Act(処置・改善)																					
<b>治療の高精度化の推進</b> 鳥取大学病院、県立中央病院 鳥取大学病院 鳥取中央病院	IMRT 定位放射線治療(SRT)：体幹部、脳 画像誘導小線源治療(IGBT)、組織内照射併用 定位放射線治療(SRT)、IMRT	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取大学における組織内照射併用腔内照射は順調に症例の蓄積が進んでいる。</li> <li>脳定位照射は8月から開始、症例は現在週1例ずつとし、脳転移だけでなく、髄膜腫、聴神経腫瘍などに対する定位照射も施行している。</li> <li>県立中央病院のIMRTも順調に症例を蓄積中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥大病院：IMRT、SRT、IGBT</li> <li>県立中央病院：IMRT、SRT</li> <li>各病院の役割は当面変わりはないが、それぞれの施設が経験を積み、適応を拡大してゆく必要あり。</li> <li>鳥取大学ではTrueBeam Edgeを活用したSRTの適応拡大を進めてゆく。</li> </ul>																					
<b>標準的かつ安全な治療の継続的な提供</b> 鳥取大学病院(常勤医4、専門医3名) 県立中央病院(常勤医2、専門医2) 鳥取赤十字病院(常勤医0、専門医0) 県立厚生病院(常勤医0、専門医0) 鳥取市立病院(常勤医1、専門医1) 米子医療センター(常勤0、専門医0)	3次元照射(3-DCRT)、IMRT、SRT、IGBT、Isotope 3D-CRT、SRT、IMRT 3D-CRT 3D-CRT 3D-CRT、IGBT 3D-CRT	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取県においては、常勤医がいる施設、非常勤のみの施設(鳥取大学医師を派遣)、ともにガイドラインにそった標準的な治療を行うことを徹底している。</li> <li>安全面に関しては、各病院でマニュアル等を作成し、随時チェックし、評価する。また、病院間での情報共有も重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現時点で、人員の配置を変更するのは困難である。可及的な処置として非常勤医の増加を行ってきており、今後も継続する。</li> <li>長期的には若手治療医の育成が最重要。本年度で県内全員が専門医となったが、治療医を目指す若手は増えておらず、学生時代から放射線治療の魅力伝えて行くことを重要視し、県内の主要施設で教育を施行している。</li> <li>安全面では、マニュアル等が作成されていること、そしてそれに基づいてチェックが行われているかどうかを評価する必要あり。病院間でインシデント等の共有が出来ることが理想。</li> </ul>																					
<b>県内で連携して、症例数の増加を図る</b> 治療患者数 鳥取大学病院 県立中央病院 鳥取赤十字病院 県立厚生病院 鳥取市立病院 米子医療センター	<table border="1"> <tr> <td>2020</td> <td>2021</td> <td>・県とも連携してCOVIDの影響を把握する</td> </tr> <tr> <td>407</td> <td>407</td> <td>・各施設における過去複数年の傾向の把握</td> </tr> <tr> <td>208</td> <td>200</td> <td>・各施設の県の放射線治療における役割を把握し対応する。</td> </tr> <tr> <td>141</td> <td>147</td> <td>・各施設が意見交換して対策を検討する。</td> </tr> <tr> <td>113</td> <td>114</td> <td></td> </tr> <tr> <td>105</td> <td>84</td> <td></td> </tr> <tr> <td>174</td> <td>148</td> <td></td> </tr> </table>	2020	2021	・県とも連携してCOVIDの影響を把握する	407	407	・各施設における過去複数年の傾向の把握	208	200	・各施設の県の放射線治療における役割を把握し対応する。	141	147	・各施設が意見交換して対策を検討する。	113	114		105	84		174	148		<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取大学においては新型コロナウイルス第7波の時に(7-9月)、2台目可動直後にかかわらず、治療件数が著明に減少した。コロナによるがん治療の遅れを示唆するものであると考えられる。他院においても減少傾向という報告あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線治療は他科からの依頼で行うことがほとんどであり、複数科にコロナの影響が出た場合、大きな影響を受ける。これに関しては致し方ないことであり、今後も影響を受ける可能性があると言えるが、コロナのがん治療への影響を、県で検証していくことも重要であると考えられる。</li> </ul>
2020	2021	・県とも連携してCOVIDの影響を把握する																						
407	407	・各施設における過去複数年の傾向の把握																						
208	200	・各施設の県の放射線治療における役割を把握し対応する。																						
141	147	・各施設が意見交換して対策を検討する。																						
113	114																							
105	84																							
174	148																							
		<p>令和3年度から4年度治療件数</p>																						